

## 第7次山形県教育振興計画検討委員会（第3回） 発言概要

（第7次山形県教育振興計画検討委員会 委員名簿順）

### 【石沢委員】

- 7カフェに参加することで、実際の学校現場で様々な丁寧な取り組みが行われていることを理解した。現場で先生方が頑張っていることやビジョンをしっかりと発信し、教育のポジティブな側面を伝えていくことが重要。
- 疑問を持つことが大事。常識にとらわれない発想がクリエイティブな力を生み出す。教師は、児童生徒一人ひとりとの向き合い方や主体性の引き出し方を考えるととてもクリエイティブな仕事。学校という対面の場だからこそできるクリエイティブなアプローチを追求することができれば面白い。
- 主体性は重要だが、それは放置ではない。地域の大人であれ、クラスメイトであれ、インターネット上で出会った人であれ、様々な人と一緒に関わっていくことの重要性を子どもたちに伝えられたらよい。

### 【佐藤委員】

- 多様な教育の場を確保できるかについて、高校段階では、オンライン学習や個別最適な学びのスタイルがある程度確立されつつあるが、小中の義務教育段階では難しさを感じる。定められた学習指導要領の中で、地域独自の教育施策が求められる。
- 生命関連産業の5つの要素である健康・医療、環境、生活・福祉、農業、文化という点では山形県に強みがあり、探究授業、可能であれば事業化する等の体験学習など、教育と結びつける取り組みができると面白い。
- 不登校やいじめの問題解決には、教員の業務負担軽減、働き方改革によって先生方のゆとりを生み出し、児童生徒一人一人に向き合う時間を創出することが不可欠。

### 【澤邊委員】

- 教育は価値観の継承。子どもたちは教師の言葉に影響を受けるということを考えれば、簡単なことではないが学校や先生方が変化する必要がある、学校内外での子どもと大人の出会いの機会が重要。
- 計画策定に当たっては、子どもの視点や考え方を取り入れた検討が必要。
- みんなが同じである必要はないし、得意なこと、好きなことを追求していくことも重要で、価値基準が多様になればそれは可能になるだろう。
- 心身の状況だけでなく、経済的な状況、国籍の違いなどを含め、教育を受ける、教育に触れる機会の公平性を確保できるかが重要。

### 【末永委員】

- アントレプレナーシップ・自主的なマインドを持って果敢にチャレンジし、失敗してもめげずに何かやり遂げようとするような性質が高い県民性というのはウェルビーイングも高くなっていく傾向。
- 自身のイベントに村山産業高校の生徒が参加し、サルノコシカケから繊維を作ったり里芋の超促成栽培の取組みをプレゼンしてくれた。自分がやりたいことを論理的な表現を使って発表する姿、大人を説得させるコミュニケーション能力、自分がやっていることに対する自信や自己肯定感が伝わり、大きな衝撃を受けた。まさしく彼らは、自主性、自律性、イノベーション、起業家教育に繋がるモデルケース。
- 学校の中だけに留まらない、外に出て行って果敢にチャレンジし、失敗をして学ぶといった中間領域を上手に使った学びが重要。そうしたことを7教振に盛り込めるとよい。
- これまでの教育では、偏差値や学力の高さ、部活動が優れているということがわかりやすい指標とされてきた。これからはパラレルに様々な観点で評価されるようになり、コミュニケーション能力やソーシャルキャピタルの重要性が増していく。これに対応できないと、社会に出たときに教育格差がドラステックに出るだろう。

### 【高井委員】

- 山形を今後も継続的に発展維持をさせる視点では、学生たちに山形の産業や地域経済の重要性を理解させる機会が不足しており、製造業などの既存産業に対する魅力を伝える必要がある。
- 子どもたちの自己実現を高めていく視点では、既存産業に対しての魅力を理解してもらうチャンスを作る、山形がビジネスを起こすことができる環境であることPRし、場を作っていくということも必要。
- 子ども達の価値基準や教育の方向性が変化する中、社会や企業もその変化を理解する必要がある、そのためには社会、民間企業を教育に巻き込むことが重要。
- オンライン上での教育環境が整う中、山形県の特徴を出すには、ウェブ上での教育レベル向上に関する県民の認識を高め、山形は先進的という希望が見える形が大切。

### 【玉井委員】

- グローバルからグローバルへの流れが、人口減少の地域でも明白で、それに対処するためにはグローバル化を受け入れる必要がある。グローバルとローカルは決して断絶したものではない。
- 学生の自由な発想を促進する教育が重要。典型的なアイデアにとらわれずに、突き抜けた発想を育てる必要がある。

- 常識を疑い、新しい視点から考えることが重要であり、地域や国の発展につながる可能性がある。

#### 【寺脇委員】

- オンライン上の学習環境の重要性については、初等中等教育、高等教育の現場だけでなく、リスキリングというキーワードで、大人の学びにも大変有効。
- 多様性・個別性を尊重しながら自己実現するための学びの環境を準備するにあたり、ITを活用することは、学ぶ人だけではなく、教える人やサポートする人など、多様な人材を協調させる大きな支援になる。
- オンライン上の学習環境を準備する際に、個別性や多様性のサポートということがキーワードになるが、学習者の多様性や個別性、さらには個性に応じた教材や学びの環境を提供にすることにより、主体的な学びや探究学習がより豊かになり、教育の質の向上が望める。
- アダプティブラーニング（学習者の学習過程の解析だけではなく、態度を含めて教育データの解析を行うことによって教育をパーソナライズすること）を実現することによる教育の質の向上が必要。現在、アダプティブラーニングが比較的lowコストで実現できる時代になっている。7教振には、ぜひこのアダプティブラーニングの環境実現を盛り込んでいただきたい。

#### 【内藤委員】

- ミッションやビジョンはシンプルでなければ伝わらない。とにかくシンプルに、伝わりやすく、誰にでもわかる言葉で伝えること。伝言ゲームと同じなので、いくつもキーワードを伝えようとすると結局何一つ伝わらない。
- 政府の教育振興基本計画や6教振を見ると文字ばかり。大事なことがたくさん入っているとは理解するが、熱量を込めて県教委から出したとしても、学校の先生、地域の方々、さらに保護者に届く頃には、熱は冷め、機能しなくなるだろう。
- 計画を誰のために作るかという視点からすれば、今回は子ども達にもわかる言葉で伝える必要がある。誰に伝えたいのか、誰のための計画かということに常に立ち返ること。
- 様々な人を巻き込むことが不可欠。地域、子どもたち、保護者、様々な人たちを巻き込んで、みんなで変えていくというぐらいの旗を掲げないとこの会議でいくら議論を重ねても、多分実行は無理。多様な人々がそれぞれの夢を持ちながら、同じビジョン達成に向けて協力することが今後一番大事では。
- 多くの親が子供に「学校に行く理由」について問われ、その答えに悩んでいる。その答えは、ただ学校に行かせるためのごまかしになってしまっている。社会や価値観が変わる中で教育者も同様の経験をしている可能性がある。光というか軽くなる言葉が見つかるといい。

### 【中西委員】

- 単なる知識の習得にとどまらず、その知識を生かして幸せな社会を築くために自ら考え行動できる力を育む教育が必要。
- 教育は学校だけでなく、地域や企業、社会全体で支えられるべき。
- 知識詰め込み型ではないが、国内であっても海外であっても、社会貢献できる人材になるためには、最低限の知識やコミュニケーション能力の習得が必要。
- 山形に住む魅力を感じるかどうかは、地元での経験や教育が重要であり、地元の歴史や魅力を伝える機会を大切にすべき。

### 【藤川委員】

- 学校の教科で学ぶ読み書き計算など何かができるようになるというスキルアップの横軸と共同生活で得られる思いやりなどの人格形成といった縦軸の両方が必要。デンマーク視察の際、現地の先生から、日本の教育はしつけと教科を教えることが混ざっていないかとの指摘を受けた。
- 一般的に、幼稚園・小学校の先生は笑顔が多いが、中学・高校になると先生たちの笑顔が消えていくという話を遊佐の校長先生方と話した。ウェルビーイング研究第一人者の前野隆司氏によれば、笑顔でいると幸せになる確率や幸福度が上がるとのことであり、笑顔でいることはとても大事なこと。先生方には、しつけは家庭と社会に任せて、規則を守らせなければいけないというようなところから解き放たれてもらいたい。
- 母子手帳をもらった後、その後ぐらいから、子どもは笑顔でいること、自由でいることを大切にしましょう、地域の大人たちものびのびと子どもの成長を見守りましょう、といったことを言ってもらえると頭に残る。
- 社会全体で教育の改革を進めるには、大きなパワーが必要。ウェルビーイング試験校・ウェルビーイング認定校の取組みを試行してみてもどうか。年に何回か対話の授業を設定するとか、教員のウェルビーイング研修をやってみて、数年後にどんな変化があるかを試してみたい。そうした挑戦的な取組みに県として取り組んでももらいたい。

### 【三浦委員長】

- 7カフェの探究型学習の成果を聞く回で、現場の先生方に非常に充実感をもって報告いただいた。探究型学習に取り組む子どもたちは、チクセントミハイ先生の座標軸における右上のところ、自分の力を生かすチャレンジングな状況に身を置いていたのだろう。
- 併せて、社会の人との関わりがあったのだろう。社会の場は価値観の多様さをそもそも含む場。子どもたちが探究的な学習をする中で、学校という場から離れたときに、自然な形でいろんな価値観に触れたのではないだろうか。
- また、子どもたちは、大学受験という全国的な一つの価値に向かって進んで

いたわけではなくて、探究型学習に取り組むことでウェルビーイング、今いる自分が幸せであるという感覚を掴んでいたのではないか。

- 山形県のこれまでの教育の中にそういう要素があるとすれば、これを例えば小学校や中学校、あるいは幼稚園の子どもたち、あるいは社会、大人たちにどんなふうにして広げていくのかという考え方もできるのではないか。

#### 【村山委員】

- 持続可能な社会の実現には、価値基準や評価軸の多元化が重要で、それによって不登校などの課題（学校に行くことが前提であり、学校に行けない子どもたちが「不」とされている現状等も含め）が解決される可能性を感じる。
- 地元学ということで、山形はあれがないこれがないじゃなくて、山形の魅力をそれぞれの人たちが見つけて価値を見出していくことが大事。それでさらに地域をもっと好きになっていく。
- 子どもたちに必要とされる能力は、学校に入ると突然身につくものではなく幼少期から育むものという考え方を、教育現場だけではなく、地域の大人や保護者にも理解してもらう努力が必要。
- 県内の小学校が実践している子ども主体の学びがテレビ番組に取り上げられており、素晴らしい取り組みと感じたが、視察した教員へのインタビューで、実際に自分たちが取り組むとなった場合にできるかどうか不安だという消極的な意見があったことを残念に思う。ただ、それが今の現場の現実なのだろう。大人側のウェルビーイングを高めながら、子どもたちにとってよい環境を整える必要がある。

#### 【矢野委員】

- 教育現場や生徒、地域にとって理解しやすいシンプルなアプローチが必要。チクセントミハイ先生が提唱する、どれだけ状況がチャレンジングか、どれだけ自分の力を生かしているかという二軸で捉えることがとても大事。
- 最適なのは右上の「挑戦」領域の経験。極めてクリエイティブで、成長にも資するし、本人の充実感もある。大事なことは右上を増やしていくこと。他の3つの領域（左下：充電、左上：不安、右下：退屈）も時にならざるを得ない状況もあるのでそれは仕方ない。
- 右上に持っていくスキルは誰でも見つけられる。二軸の中心は人によって違うので、みんなが同じ尺度ではなく、それぞれの主観的な軸から右上を増やすこと。教えることは一本道だけれど、人それぞれにチャレンジングさがあって、人それぞれに自分の力を生かせるかどうかという意味で極めて多様性を包含している。
- この二軸と右上を増やしたいということをみんながわかっている県にするだけでも、とてもウェルビーイングな状態。多様な人たちがいる状況では、軸、局を絞ることが大事。情報を絞り、本質を踏まえた議論が必要。

### 【小関教育委員】

- シンプルさは重要。言えは言うほど伝わらないもの。7教振ではブラッシュアップしてもらってよりシンプルなものができることを期待したい。
- 実業高校の生徒は何かを作っているからすごく元気がよい。芸工大の学生も。探究型学習で少し改善されてきたと思うが、進学校の生徒にもものづくりに取り組んでもらいたい。クリエイティブなことにチャレンジすることが持続可能な社会の担い手の育成につながる。

### 【丹治教育委員】

- 子どもたちが自分の育ちたいように育ち、学びたいことを学べる環境が必要。子どもたちが自分で選択する力や実行力を育てることが重要で、これは子どもの権利。大人の役割は、学びの場や環境を整えること。
- 社会や環境が急激なスピードで変化中、教育に限らず今まで通りでは立ち行かないことが多くなってきた。急激な変化に対処するためには、ただ変化するのではなく、持続可能な社会を目指す思考や取組みをプラスしていくことから始めればよいのではないか。大人は、実践的な行動で、自らの考え方を示していくことが大事。